1. 有効成分に関する情報

ビメキズマブは、2つの同一抗原結合領域を有し、インターロイキン（IL）-17A、IL-17F及びIL-17A/Fサイトカインに対して、選択的かつ強力に結合して中和する新規の免疫グロブリン（Ig）G1サブクラスのヒト化完全長モノクローナル抗体である。ビメキズマブは、リコンビナントのヒトIL-17Aにより免疫したラットから得たモノクローナル抗体に由来し、抗原認識配列をコードする遺伝子はヒト化され、ヒトIgG1フレームワーク部に移植されている。

【名　称】

JAN（日本名）：ビメキズマブ（遺伝子組換え）

JAN（英　名）：Bimekizumab (Genetical Recombination)

成分記号：UCB4940又はCDP4940

INN：bimekizumab

2. 薬理学的特性

ビメキズマブはヒト化IgG1/κモノクローナル抗体である。ビメキズマブは2つの同一抗原結合領域を有し、IL-17A、IL-17F及びIL-17A/Fサイトカインに対して、選択的かつ強力に結合して中和し、これらサイトカインとIL-17レセプター（R）A/IL-17RC受容体複合体の相互作用を阻害する。いくつかの免疫介在性炎症性疾患では、IL-17A及びIL-17Fの発現レベルが上昇し、多くの組織で慢性的な炎症及び損傷に至る。ヒト*in vitro*疾患モデルにおいて、ビメキズマブによるIL-17AとIL-17Fの両方の中和は、IL-17A単独の阻害よりも、炎症関連遺伝子とその遺伝子産物であるタンパク質の発現を大幅に抑制する。また、ビメキズマブによるIL-17A及びIL-17Fの選択的かつ強力な阻害は、炎症反応の正常化をもたらす。

3. 申請する効能又は効果、用法及び用量

【効能又は効果】

既存治療で効果不十分な下記疾患

尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症

【用法及び用量】

通常、成人にはビメキズマブ（遺伝子組換え）として、1回320mgを初回から16週までは4週間隔で皮下注射し、以降は8週間隔で皮下注射する。

なお、患者の状態に応じて16週以降も4週間隔で皮下注射できる。